

二〇二三年一月一日

太子会の読経そびらに年の市

はく子

ぼろ市の大風呂敷を風除けに

うつぎ

町家かと思れば交番京小春

うつぎ

果大師見かけぬ香具師案じけり

なつき

口閉じてふかぶか浸かる柚子湯かな

むべ

財布抱き買ふ気の客や果大師

なつき

盲導犬吐く息白し霜の朝

凡士

流木を井桁に組みて磯焚火

凡士

笹鳴のこれより奥は獣道

かかし

ぼろ市の刀商ふお姉さん

うつぎ

ぼろ市の古びし布に雅あり

小袖

極楽門の内外違はず年の市

はく子

蔦紅葉走りて溪の岩襖

素秀

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二三年一月二日

どう見てもガラクタばかり蚤の市

はく子

冬霞模糊と浮ぶは八ヶ岳

愛正